



2012. 12. 03

### サケネットワーク総会とサケ会議が終了

2012年11月2日(金)、札幌男女共同参画センターにおいて標記の会議が開催されました。総会では、ネットワークの活動として会報を発行したことと、参加した会員の様々な活動等について報告がありました。また、会員の異動について報告があり、日本釣振興会の退会、サクラマスサンクチュアリーセンターの入会、“十勝川自然再生協議会準備会サケ分科会”から“十勝川水系の生態系再生実行委員会”への名称変更について承認されました。予算関係では、2011年度会計報告、2012年度予算執行状況、2013年度予算案等が承認されました。

サケ会議では、『東日本大震災における三陸のサケ事情』の課題で、以下の講師の方々に話題提供をしていただきました(写真:左)。

北海道大学名誉教授 浦野明央 「三陸のサケ:震災前の状況-大槌を中心に」: 1988年から三陸と石狩のサケを調査してきた。サケの産卵回遊や卵巣と精巣の発達状態は、沖合から沿岸の高水温の影響を強く受けるようだ。近年は北海道の秋季の沿岸水温も高い状態が続いているが、高水温の影響を把握するうえで、三陸に帰るサケの情報が参考になるだろう。

岩手大学三陸復興推進機構特任教授 阿部周一 「三陸のサケ:その現状と課題」: 今回の震災により、岩手県の三陸沿岸では地盤沈下が起きた。そのため、高潮の度に冠水する漁港もある。交通網を含めた施設面の復興はまだ道半ばである。また、県外に移動した若い世代が戻らないことも復興を遅らせている。三陸のサケについては、今後遺伝学的調査を行い、資源の維持増大に繋げる予定である。

北海道区水産研究所特任部長 石黒武彦 「三陸サケふ化放流事業の復興に向けた取り組み」: 震災直後から迅速な対応をしたおかげで、ふ化場の施設は復興が進んでいる(写真:中、右)。しかし、サケの資源量は低い状態が続いている。今後も、サケ資源を回復させるという真の復興を目指し、関係機関と協力して参る。

なお、総会と会議の詳細は近日中にホームページに掲載されます。(B)



サケ会議の様子



津軽石ふ化場(震災直後)



津軽石ふ化場(復興後)

注: 次号からニュースレターをPDFファイルで送らせていただきます。観られない方は、お手数ですが <http://get.adobe.com/jp/reader/?promoid=BPBQN> から、Adobe Reader というソフトのなるべく新しい版をインストールしてください。無料です。